

知ってほしい！ 日本の畜産と アニマルウェルフェア



「アニマルウェルフェア」を
正しく知って畜産を応援してください。

毎日食べているお肉や卵、牛乳…
どうやって生産されているのかな？

毎日一生懸命、動物たちを
飼育している生産者さんの
日々の取り組みを見てみましょう。



「アニマルウェルフェア」って
聞いたことある？



アニマルウェルフェアの
基本原則「5つの自由」

- ① 飢え、渇き及び栄養不良からの自由
- ② 恐怖及び苦悩からの自由
- ③ 身体的及び熱の不快からの自由
- ④ 苦痛、傷害及び疾病からの自由
- ⑤ 通常の行動様式を発現する自由

畜産におけるアニマルウェルフェアは、
生産者が、安心して質の良い畜産物をつくろうとする
取り組みのひとつです。



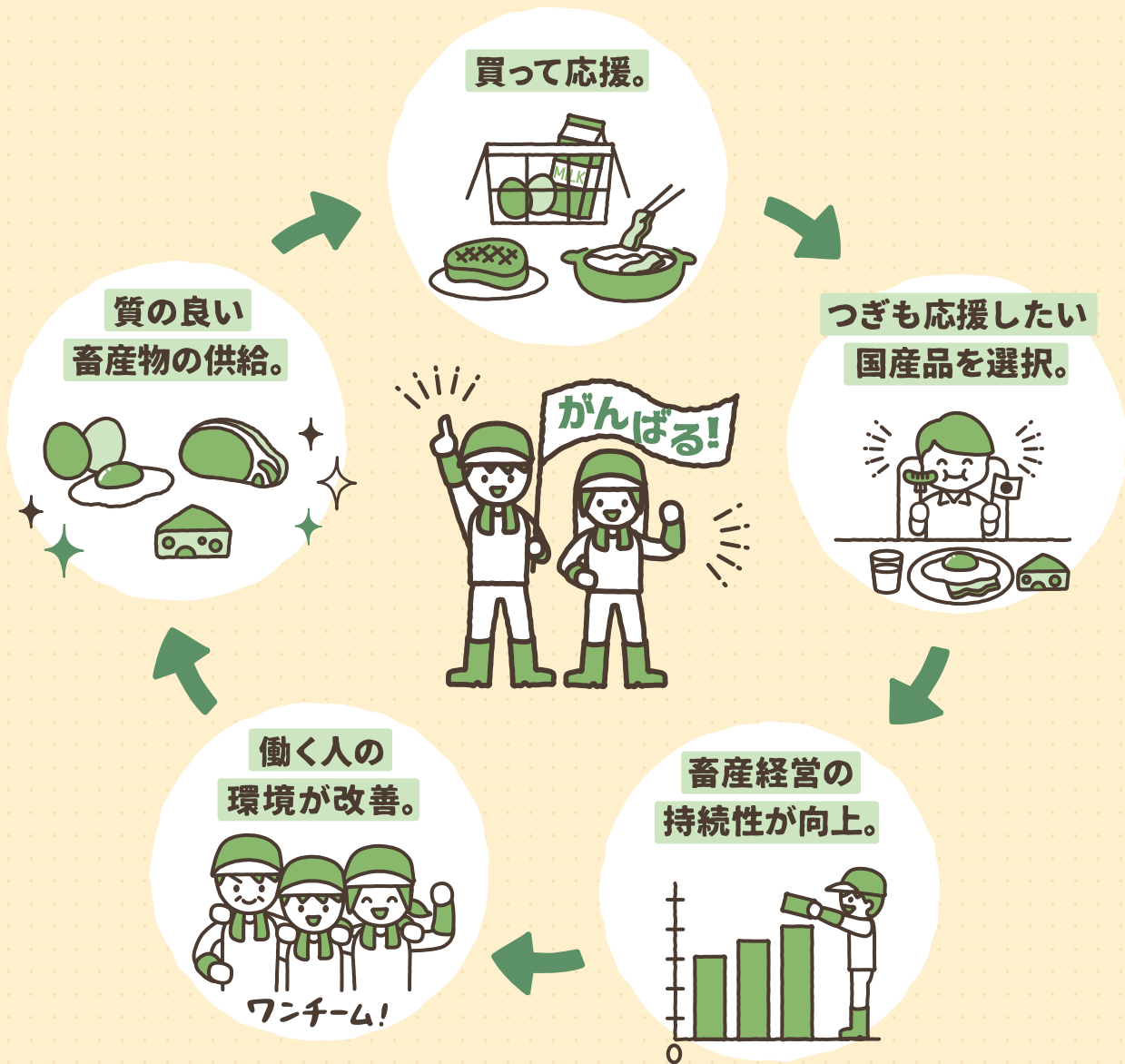
畜産におけるアニマルウェルフェアの考え方。

家畜は感受性を持つ生き物なので、
飼育している間、ストレスをできる限り少なく、行動要求が満たされた、
健康的な暮らしができる飼育方法を目指す畜産のあり方。

例えば、生産者さんの普段の取り組みも
アニマルウェルフェアなんです。

- 新鮮な餌やお水を提供する
- ストレスを与えないように丁寧に接する
- 快適な温度や清潔な環境で過ごしてもらう
- 病気にならないように予防する など…

もっと畜産物のことを知ると 応援したくなる!?



みなさんの応援はSDGsへの 貢献にもつながります。

家畜を快適な状態に保つことは、畜産経営の持続可能性を高め、
そこで働く人の環境を改善し、質の良い畜産物の供給に寄与します。
つまり、SDGsの中でも、特に目標2「飢餓をゼロに」や
目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標8「働きがいも経済成長も」、
目標12「つくる責任、つかう責任」などの実現に関わっています。

考えてみよう！

それぞれの立場でアニマルウェルフェアを考え、
取組みを進めることで、
より豊かな食生活につながります。

消費者



アニマルウェルフェアについて学び、家畜の飼育管理や畜産物に何を求めるかを意識する。

生産者



家畜が快適かを考え、飼育環境の改善や健康管理に気を配り毎日の飼育管理を行っている。

加工／流通／小売店



アニマルウェルフェアの情報を収集し、消費者が畜産物を購入する時に選択の場を提供する。

覚えておこう！

「アニマルウェルフェア」、「動物愛護」、
「アニマルライツ」、それぞれの動物に対する
向き合い方や考え方。

【アニマルウェルフェア】

動物の生活を改善することを目標として、
例えば肉や牛乳、卵など、動物を私達の生活に利用することを認めて、
人の感情とは関係なく、動物を主体として動物の状態を
客観的・科学的に捉えようとする考え方。

【動物愛護】

動物を利用する事を認めて、人が動物を愛し大切にすること
であり、人から動物への感情が強く反映されています。
科学的根拠ではなく、人の感情に判断が左右されるところが
アニマルウェルフェアとの大きな違いです。

【アニマルライツ】

動物の権利と訳され、動物を利用することそのものを
やめようとする考え方。



食卓に届くまで

飼料価格の高騰、人手不足、
家畜伝染病対策など様々な問題に対応しながら、
たくさんの人たちが関わって「適正な飼養管理」に
配慮した畜産物(食料)が生産され、
食卓まで運ばれています。



もっと知ってみよう！

農林水産省や公益社団法人畜産技術協会のHPでは
アニマルウェルフェアの基本的な考え方や、
具体的な取組み状況などが公開されています。

もっと詳しく知りたい方は、こちら。

農林水産省「アニマルウェルフェアについて」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/animal_welfare.html



公益社団法人畜産技術協会

<https://jlta.jp/>



アニマルウェルフェア体験レポート【山梨】篇



生産者への関心が AW普及につながる



【特別講師】

信州大学
農学部 教授
竹田 謙一 教授

消費者の目が生産側に向けられることで、生産者の意欲も向上し消費者に見せることができる飼育をしようと思います。それが動物の飼育環境の改善につながり、将来的にはAWの普及につながっていくのだと考えています。

山梨学院
短期大学



農業生産法人
黒富士農場

全国の自治体では初めてとなるアニマルウェルフェアの認証制度を創設した山梨県。山梨学院短期大学食物栄養科の4人が、採卵鶏の放牧飼育を実践している甲斐市の農業生産法人黒富士農場を見学しました。

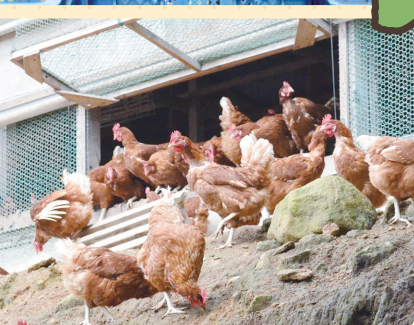
ノウハウの共有で AWの輪広げる



農業生産法人
黒富士農場 専務取締役
向山 一輝さん

「人も動物も満たされて生きる」。これが私たちの経営理念です。AWへの理解が進み注目度も高まる中、私たちが培ってきた技術やノウハウを広げ、“仲間”を増やしていく取組みも進めています。

食卓に届くまでの過程を知り、食材への感謝を実感。 動物たちの暮らしから消費者の役割を学んだ！



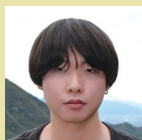
山梨学院短期大学
食物栄養科
2年
新谷 葵さん

AWと動物愛護との違いを知ることができました。私は栄養士と保育士の資格を持っていますが、AWの学びを通じて敬意を持って食材を扱ったり、食育として子どもたちにも伝えたいと思いました。



山梨学院短期大学
食物栄養科
2年
加藤 璃来さん

畜舎を見学してニワトリが過ごしやすい環境だと実感しました。ニワトリが人を怖がっていないことも印象的で、黒富士農場さんのスタッフがニワトリを愛して飼育していることがよく分かりました。



山梨学院短期大学
食物栄養科
2年
深澤 優介さん

食材がどのように生産されているのかを消費者が知ることとはとても大切だと思います。AWについては詳しく知りませんでしたが、今回の体験をきっかけにほかの食材の生産方法などについても考えてみたいと思います。



山梨学院短期大学
食物栄養科
1年
佐藤 鷹人さん

日常では見ることができない生産者の気持ちや動物の行動の特性などを見ることができて学びになりました。今回、生産者側を見ることができたことで卵はもちろん、さまざまな食材を大切にいただこうという気持ちになりました。



アニマルウェルフェア体験レポート [宮崎] 篇



日本の畜産を応援するために！

きちんとした 飼養管理に自信を持って



【特別講師】

宮城大学食産業学群
教授

深澤 充教授

AWに対する理解不足もあり、畜産現場には戸惑いもあるようですが、日本の農家の飼養管理はすでに対応できている部分がたくさんあります。富永さんの牛舎でも牛たちは快適な環境で健やかに育っていて、畜産県の底力を感じました。

宮崎県立
農業大学校



牛商丑力
株式会社

農業産出額が全国6位で、その約7割を畜産が占める「畜産王国」の宮崎県。肉用牛の海外輸出も盛んです。今回は宮崎県立農業大学校の4人が、小林市で和牛の繁殖肥育一貫生産を手がける牛商丑力株式会社の牛舎を見学しました。

牛も飼育する人間も お互い幸せが一番



牛商丑力株式会社
代表取締役 牧場主

富永 正久さん

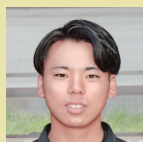
私たちは牛への目配り、気配り、心配りを徹底しています。牛もそれが分かっているから気性が穏やか。何よりも愛情を注いだ分だけ肉質が良くなります。牛も飼育する側の人間もお互い幸せであることが一番だと思います。

畜産にとって、安全安心につながる大切なこと。 アニマルウェルフェアに取り組む気持ちが強くなった！



宮崎県立農業大学校
畜産学科
2年
下村 康介さん

中学校時代から馬術競技を続けています。深澤先生の説明で、今まで漠然としていた動物愛護とAWの違いがよく分かりました。馬と心を通わせ、もっと幸せに生きられるよう、調教や管理などの方法を工夫したいと思いました。



宮崎県立農業大学校
畜産学科
1年
坂藤 大地さん

AWを難しく考え過ぎている農家が多いので、「5つの自由」を浸透させる必要性を感じました。将来は実家を継いで、和牛の繁殖肥育一貫生産に取り組む予定。清潔で適切な温度の牛舎など、環境整備から始めたいです。



宮崎県立農業大学校
畜産学科
1年
瀧本 綾乃さん

「牛が好きなき持ちはまず大切に」。講義や牛舎見学を通じて、AWに取り組む気持ちが強くなりました。まずは牛舎での作業中に観察力を高め、食欲や歩き方、体調の変化など病気の前兆に気付けるようにになりたいです。



宮崎県立農業大学校
畜産学科
1年
日野 要さん

出身地の長野県は宮崎ほど畜産が盛んではなく、AWの気運醸成には時間がかかりそう。でも食の安全安心につながる大事な取組みなので、消費者が頑張る農家を「消費」で応援してもらえるとAWも広まると思いました。





The National Association of Racing
地方競馬全国協会
畜産振興事業

公益社団法人畜産技術協会

〒113-0034 東京都文京区湯島3丁目20-9 TEL:03-3836-2301 FAX:03-3836-2302